

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號一第 卷八十第

號念記年百二誕生スミス・ムダア

口 繪 スミスの肖像・筆蹟・國富論初版扉・記念會寫眞

スミスの生涯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・經濟學博士 本庄榮治郎

道徳的價値判斷に關するスミスの思想・・・・・・・・法學士 恒藤 恭

富國論の研究方法に就きて・・・・・・・・法學博士 財部 靜治

スミスとコンデアックとの價値論・・・・・・・・法學博士 田島 錦治

スミスの所謂「眞實の價格」について・・・・・・・・法學博士 河上 肇

スミスの價格論と分配論・・・・・・・・經濟學士 谷口 吉彦

スミスの自然主義觀と自由政策の見地・・・・・・・・法學博士 河田 嗣郎

スミスの自由放任論の特徴・・・・・・・・經濟學士 堀 經夫

スミスの自由貿易觀・・・・・・・・法學士 作田 莊一

スミスの對植民地策・・・・・・・・法學博士 山本美越乃

スミスの租稅原則・・・・・・・・法學博士 神戸 正雄

スミスの公債論・・・・・・・・法學博士 小川郷太郎

スミスと浪漫派經濟學・・・・・・・・法學士 山口正太郎

スミスのの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書・・・・・・・・商學士 武藤 長藏

書目 スミス關係書目(細目裏面を見よ)  
 記事 スミス記念會記事・・・・・・・・經濟學博士 本庄榮治郎

# 記事

## アダム・スミス生誕二百年

### 記念會記事

本庄榮治郎

近世經濟學の鼻祖として不朽の名を成したアダム・スミスの生誕二百年を記念せむがために、我が京都帝國大學經濟學會に於ては、その生誕の當日、即ち六月五日(大正十二年)に關係圖書及び記念物の展覽會、並びに講演會を開催し、記念繪葉書を發行配布したことは、既にその當時詳細報告せし通りである。<sup>\*</sup>今、記念號の發刊に際し、再び我が記念會の記事を録することとなつたから、多少の重複を厭はず、左にその大要を掲げたいと思ふ。

#### 圖書記念物展覽會

圖書記念物展覽會は當日午前九時より本學構内尊攘堂に於て之を開く、陳列品は左の如き分

記事

類の下に無慮二百點に達した。

#### 第一類 アダム・スミスの論著・書簡及び傳記

- 一、スミスの論著(原版)
  - 二、スミス論著の翻刻
  - 三、スミス論著の翻譯(邦文を除く)
  - 四、スミスの書簡その他
  - 五、スミスの傳記(邦文のものを除く)
- #### 第二類 アダム・スミスに關係ある和書

- 一、スミス論著の翻譯
- 二、スミスの傳記
- 三、スミス學說の紹介
- イ、スミス學說の紹介を主題とせるもの
- ロ、明治二十年迄に公刊されし著書中、スミスの學說を紹介せるもの
- ハ、明治二十年迄に公刊されし譯書中、スミスを引用せるもの
- 四、スミスと同時代の日本の經濟書

#### 第三類 アダム・スミスに關する記念物

- 一、肖像
- 二、邸宅、墳墓、大學その他の寫眞類
- 三、スミスの藏書、スミスの筆蹟、國富論出版百年記念會記事
- 附、スミス生誕二百年記念諸論文

第十八卷(第一號 三八三) 三八三

\* 本誌 第十七卷一號 記念會記事參照

當日出陳された書籍記念物の中には特に貴重なるものが少くなかつた。その二三を擧ぐれば先づ "Wealth of Nations" (國富論) の初版が八

部も出陳され、殊にその中には、スミスの友人 ステュアート (Dugald Stewart) が所藏せしものにて、其扉に彼れの自署を存せるものがあつたことは多大の注意と感興とを惹いた。國富論の原版は初版の外、再版より八版まで悉く具はり、十二版も亦出陳され、其他 Additions and Corrections to the First and Second Editions of Wealth of Nations. Theory of Moral Sentiments, London. (十六版及十版) Essays on Philosophical Subjects. Lectures on Justice, Police, Revenue and Arms, 等の論著も展觀された。

翻譯書の中では國富論初版と同年に出版されたダブリン版國富論の初版 (1776, 3 vols) 並に原版の四版 (London 1786) よりも、一年早く出版されたダブリン版の四版 (Dublin, 1785 2 vols) が特に人々の注意を惹いた。其他各種の翻譯書並に抄録版も多數出品されたが、Essays

on Philosophical Subjects, にも原版的にダブリン版 (Dublin, 1795) が同年に出版されて居ることを特に記しておく。<sup>\*\*</sup>

次に翻譯書では、國富論の佛譯及獨譯の外漢譯もあり、道徳情操論の佛譯本も陳列され、スミスの書簡及び傳記等についてもその重要なものは洩す所なく蒐集された。

第二類にスミスに關係ある和書として、單に國富論の邦譯、邦文傳記のみならず、スミスの學說が我國に如何にして傳へられたかを示すために、明治前半における著書譯書中スミスの學說を引用紹介せるものを集め、且つスミスと同時代の日本の經濟學者の著書をも出陳したことは、我國に於てスミスの生誕二百年を記念するに就きて、極めて意義あることたるのみならず一般縱覽者にも多大の興味を與へたものゝ如くであつた。

邦譯書では石川映作・三上正毅・竹内謙二諸氏の譯書のあることはいふ迄もない所であるが石川氏がその翻譯を最初に掲載された東京經濟

\* 本誌口繪參照

\*\* Wealth of Nations, Dublin 版のこゝについては本誌第十七卷一號所載 河上教授「諸國民の富」のダブリン版についてを參照せよ。

學講習會講義錄(明治十六年)や、自由貿易に關する部分だけを抜萃した「富國論覽要」(明治十八九年)も出陳され、譯書はすべてで五種となつた。スマイスの學說の紹介としては、福澤諭吉氏の「學問のすゝめ」「民間經濟錄」田口卯吉氏の「日本經濟論」を初めとして、其他の著書はもとより明六雜誌、東京經濟雜誌、國家學會雜誌等の雜誌にも及び、すべて十六種、譯書では、神田孝平氏の西洋經濟小學(慶應四年三月)以下明治二十年に至るまでのもの約二十五種を出陳した。

スマイスと同時代の日本の經濟學者としては、三浦梅園及び井上四明はスマイスと同年の出生であるが、その前後に亘つて著名の學者としては、大石久敬、佐藤信季、山縣昌貞、本居宣長、中井竹山等がある。而して此等の人々の著書も屢觀に供したが、別に參考として舊幕時代に輸入された蘭人 Rooy の著「歐洲經濟學史」の寫眞三葉を陳列した。これは該書にスマイスの名が出て居り而も紅唐紙などが處々に貼つてあつて舊幕時代に何人か讀むだものに相違な

く、スマイスの名は既に維新以前に我國に傳はりおりしならむとの説を證據立つべき參考資料たるべきものである。

### 第三類の記念物中主なるものは、

#### 一、肖像

- メグレイヨン複製石膏像——タッシー作(一七八七年、スマイス六十四歳の時の作)
- 右寫眞——(一)福田博士『國民經濟講話』乾卷、二一六一—七頁、大正十年改訂版、一五八—九頁、所載(二)The Scottish National Portrait Gallery, 1891, Edinburgh, p. 59.
- 胸像版畫——Tassie のメグレイヨンに基くもの——(一) Engraved by Bell (MacCulloch, Wealth, 1850 版及び 1863 版)——(二) Engraved by Horsburgh (MacCulloch, Wealth, 發行年代未詳の分一、1828 版、及び 1846 版)——(三) Engraved by Holl (Wakefield, Wealth, 1843)
- 半身像版畫 (Drawn by Jackson, engraved by Picart, published Nov. 25, 1811, Cardell and Davies, London) ——同上 (Stewart, Works, vol. IV, Memoirs, 1811, Edinburgh)
- 右向き半身像版畫(與據未詳のもの) —— (一) Garnier et Bianqui, Richesse des Nations, 1843 —— (二) Löwenthal, Volkswohlfahrt, 1882 —— (三) Glasgow 版 Wealth, 1805. ○左向き半身像版畫(同上) —— (一) London 版 Wealth, 1826

(11) Jentsch, Smith, 1905.

○全身像版畫 (Engraved by Kay, 1970) —— (1) MacCulloch  
版 Wealth, 1846. —— (11) 同 4 1850. —— (111) 同 4 1863.

○その他 —— (1) 全身肖像の寫眞 (Edinburgh 博物館の外壁)

—— (11) 半身像の寫眞 (Lithograph by R. S. Mitchell,  
Edinburgh) —— (111) 胸像記念碑の寫眞 (Paris, Société d'  
Economic Politique, 1876. Wealth of Nations 出版百

年記念) —— (111) 半身油畫像の寫眞 (作者未詳) —— (111) 全身  
塑像の寫眞 (London 文官試験委員會館の外壁)

○スミスの母マーガレットの寫眞 (福田博士「國民經濟講話所  
載大正十年改訂版の一六〇頁)

二、邸宅、墳墓、其他の寫眞類

○カアコウデアイ —— 生景(三葉) —— スミス博物館(四葉) —— 小

學校(三葉) —— 教會(二葉) —— 住宅見取圖(一葉) —— 住宅附

近(一葉)

○オクスフォード —— メリオルカレッサ(一葉) —— 同圖書館

(一葉) —— 同校算(一葉)

○グラスゴウ —— 大學(三葉)

○エヂンバラ —— 大學(一葉) —— 住宅及近附近(四葉) —— 墓所

見取圖(三葉) —— 墓所寫眞(一葉)

○其他 —— アダム・スミス両親の結婚記念の椅子(一葉)

三、スミスの藏書、スミスの筆蹟、スミス記念會  
記事

○藏書四冊 Adam Smith の藏書票あり ○筆蹟 (Strahan

に宛たる手紙)

○Adam Smith Centenary, May 31, 1876 (Political  
Economy Club)

○Memorial Tablet to Adam Smith (unveiled at Birth-  
place)

等であつて、今回の生誕二百年を記念せる諸論  
文も、新聞及び雜誌上にはあらはれしものの中、  
主なるものを出陳して、スミスを偲ぶの料とし  
た。

當日、主要出陳品目録を印刷し、來觀者に配  
布したが、翌六日も午前九時より午後五時まで  
一般の縦覽を許すこととなつた。

別項の「書目」中には以上出陳された。書名  
も勿論記されてゐることであるから、茲には上  
述の分類の順序によらず、出陳者の區別に従つ  
て、主なる出陳書名を掲げ、以て出陳者に對し  
謝意を表する一方法としたいと思ふ。

大原社會問題研究所出品

Wealth of Nations, London 1776, 1st ed., 2 vols.

Edinburgh 1846, 1 vol.

Edinburgh 1814, Buchanan's ed., 3 vols.

- 〃 Edinburgh 1828, McCulloch's ed. 4 vols.
- 〃 London 1843, Wakefield's ed. 4 vols.
- 〃 Oxford 1869, Roger's ed. 2 vols.
- 〃 London 1884, Nicholson's ed. 1 vol.
- 〃 London 1821 Joyce's ed. 1 vol.
- 〃 Oxford 1821 Emerton's ed. 1 vol.
- 〃 Paris, 1843 Garnier譯 Blaquier訂 2 vols. (佛)
- 〃 Jena 1920 Grünfeld譯 2 vols. (獨)
- Moral Sentiments, Paris 1860 Baudrillart譯 1 vol. (佛)

**藤本マールブローカー銀行調査部出品**

- Wealth of Nations, London 1776, 1st ed. 2 vols. (ケ  
スの友人 Stewart の舊藏本、扉に「ケサマント」の署名あり)
- 〃 Edinburgh, 1863, McCulloch's ed. 1 vol.
- 〃 London 1886, Nicholson's ed. 1 vol.
- Delatour, Adam Smith sa vie ses Travaux, ses  
Doctrines, Paris, 1886, 1 vol.
- 經濟學講義「ノール」述、宇川盛三郎譯、明治十四年

**同志社圖書館出品**

- ケック所藏本四冊 (Of the Origin and Progress of  
Language, Edinburgh, 1773-1787)
- Wealth of Nations, London, McCulloch's ed. 1 vol. (出版

記事

年次未詳(四六版)  
英氏經濟論、サニーランド著、小幡篤次郎譯、明治四年乃至十  
年、九冊

租稅論。ルロンホリニー著、大藏省、明治十九年、二冊  
財政學、ビュモン著、飯山正秀譯、明治廿年、一冊

**京都府立圖書館出品**

- 東京經濟學講習會講義錄 明治十五年 八冊 (石川暎作譯常國  
論を載す)
- 泰西經濟新論 ローシヤース著 高橋達郎 明治七年 八冊
- 經濟論 堀越愛國譯 明治七年 二冊
- 利學 ミル原著 西周譯 明治十年 二冊
- 經濟新論 校本直己譯纂 明治十七年 一冊

**長崎高等商業學校武藤教授出品**

- Wealth of Nations, London, 1776, 1st ed. 2 vols. (一部出版)
- 〃 Dublin, 1785 4 th ed. 2 vols.
- 〃 Edinburgh, 1846, McCulloch's ed. 1 vol.
- 〃 Paris, 1795, Roncher譯 5 vols.

- Moral Sentiments, Boston 1817 1 vol.
- Essays on Philosophical Subjects, Dublin, 1795 1 vol.
- Hume, History of England, 1855 1 vol. (ケックの書簡  
から)
- Nonvcan Manuel Epistolair, 1911, 1 vol. (ケックの書簡

第十八卷 (第一號 三八七) 三八七

記事

あり)

メモリスの書簡 二通

Lockhart, Notes on The Life Times and Relics of

Adam Smith. 1913. 1 vol.

Memorial Tablet to Adam Smith (unveiled at Birthplace)

墓所見取圖 Rooy 歐洲經濟學史、其他の高眞等數葉

東京商科大學高垣助教授出品

Wealth of Nations, London, 1786 4 th ed. 3 vols.

” ” 1789 5 th ed. 3 vols.

” ” 1795 8 th ed. 3 vols.

富國論提要 石川映作譯 明治十八、九年 二册

タツシイ作、メダイヨン複製石膏像(一七八七年、スミス六十四

歳の時の作)

メモリス肖像 其他高眞等數點

大平賢作氏出品

Wealth of Nations, London, 1776 1 st ed. 2 vols.

御木本隆三氏出品

メモリス肖像、カアコサデー小學校 其他高眞 十數葉

第十八卷 (第一號 三八八) 三八八

木學部出品

Wealth of Nations, London 1776 1 st ed. 2 vols

” ” 1812 12 th ed. 3 vols.

” ” Dublin 1776 1 st ed. 3 vols.

” ” Glasgow 1805 4 vols.

” ” London 1811 3 vols.

” ” 1817 3 vols.

” ” 1826 1 vol.

” ” Hartford 1818 2 vols.

” ” Edinburgh 1819 3 vols.

” ” 1838 1 vol.

” ” 1863 1 vol.

” ” 1850 McCulloch's ed. 1 vol.

” ” London 1904 Cannan's ed 2 vols.

” ” 1812 World Library's ed. 1 vol.

” ” 1921 Everyman's Library's

ed. 2 vols.

” ” 1921 Bohn's Standard Library's

ed. 2 vols.

” ” New York 1921 Ashley's ed 1 vol.

” ” Berlin 1876 Stöpel譯 4 vols. (獨)

” ” 1882 Löwenthan譯 2 vols. (獨)

” ” Leipzig 1910 Stirner譯 Schmidt 訂

2 vols. (獨)

Additions and Corrections to the First and Second Editions of Wealth of Nations, London 1784.  
 Moral Sentiments, Basil 1793. 2 vols  
 Essays on Philosophical Subjects, London, 1795.  
 Lectures on Justice, Police, Revenue and Arms, delivered in the University of Glasgow. Oxford, 1895.  
 A Fragment of a Short Manuscript drawn up by himself in the year 1755. (Works of Stewart, 1858, vol. X, p. 68)  
 The Economic Journal vol VI. 1896 (ケウケの雑誌及ケウケの雑誌)  
 Sinclair, Correspondence vol 1. 1831 (ケウケの書簡及ケウケの書簡)  
 Stewart, Works, vol IV, (Biographical Memoirs of Adam Smith, L. L. D. of William Robertson, D. D. and of Thomas Reid, D. D.) Edinburgh. 1811.  
 Hamilton, The collected Works of Dugald Stewart, vol. X. (Biographical Memoirs of Adam Smith, L. L. D. William Robertson, D. D. Thomas Reid, D. D. to which is prefixed A Memoir of Dugald Stewart.) Edinburgh. 1858.  
 Bagehot, Adam Smith as a person (Fortnightly Review, vol. XX.) London 1876.  
 Bagehot, Biographical Studies, London 1881.  
 Farrer, Adam Smith, London 1881.

記 簿

Haldane, Life of Adam Smith, London, 1887.  
 Rae, Life of Adam Smith, London 1895.  
 Hirst, Adam Smith, London 1901.  
 Jentsch, Adam Smith, Berlin 1905.  
 Dictionary of National Biography vol XVIII. London 1909.  
 Palgrave, Dictionary of Political Economy, vol III. London 1913.  
 原富 (Wealth of Nations 漢譯) 嚴復譯 光緒二十八年 (1902) 八册  
 富國論 石川映作譯 明治十七年以降 三册  
 富國論 三上正毅譯 明治四十三年 一册  
 富國論 竹内謙二譯 大正十年十一月 二册  
 經濟學者列傳 經濟雜誌社刊 明治二十五年  
 アダム・スミス傳拾遺 河上肇(經濟論叢第五卷三號) 大正六年九月  
 アダム・スミス生涯 高橋誠一郎 三田學會雜誌第十六卷 大正十一年  
 アダム・スミスの帝國主義觀 ニュルンン著、關口健一郎譯 大正六年 一册  
 アダム・スミスの經濟思想 谷口彌五郎著 大正十二年一月一册  
 福澤全集(學問のすゝめ、民間經濟論にスミス學說の紹介あり)  
 日本經濟論 田口卯吉著 明治十一年一月 一册



記事

第十八卷 (第一號 三九〇) 三九〇

東京經濟雜誌 明治十二、十三、十五、十八年

經濟說略 永田健助著 明治十三年十一月再版 二册

經濟策 田口卯吉著 明治十五年 一册

經濟原論 森下峯楠著 明治十六年五月 二册

經濟學大意 土子金四郎著 明治二十年十二月 一册

肅堂遺稿 經濟學 一册(明治二十年前後の講義を收む)

英國開化史 マックル著 大島貞益譯 明治七年

彌兒經濟論 林薫、鈴木重孝譯 明治八年十月以降 十六册

理財論 ガルニニョー著 中山真一譯 明治十一年五月 二册

大英商業史 レプリー著 田口卯吉譯 明治十二年十月 十七册

經濟要義 ケーメンス著 伴直之助譯 明治十七年四月 一册

麻氏經濟哲學 マクラオキ著 田口卯吉譯 明治十八年七月 一册

地方凡例錄 大石久敏 (1721-1794) 著

價原 三浦梅園 (1723-1789) 著

經濟十二論 井上四明 (1723-1819) 著

漁村維持法、堤防溝池志 佐藤信季 (1724-1784) 著

柳子新論 山縣昌貞 (1725-1767) 著

玉くしげ、玉くしげ別本 本居宣長 (1730-1801) 著

草莽危言 社倉私議 中井竹山 (1730-1804) 著

Portrait of Adam Smith, published Nov. 25, 1811.

Bonarri, A Catalogue of the Library of Adam Smith,

London, 1894.

Adam Smith Centenary, May 31, 1876 (Political Eco-

nomy) Club)

文學部倫理學研究室出品

Wealth of Nations, London, 1928, 1 vol.

Moral Sentiments, London, 1911, Bohn's Standard

Library's ed. 1 vol.

Works of Adam Smith, London 1812, 5 vols (ed by

Stewart)

本學附屬圖書館出品

Wealth of Nations, Paris 1859 (Farnier譯) 3 vols.

Theory of Moral Sentiments, London, 1804, 10th ed.

2 vols.

Encyclopaedia Britannica vol XXII Lond. 1887.

明六雜誌 (西村茂樹、自由交易論あり)

經濟要論 外國貿易之理 駒井重裕著 明治十六、七年 一册

經濟原論 天野爲之著 明治十九年三月

國家學會雜誌第一卷 明治二十年

西洋經濟小學 イリス著 神田孝平譯 慶應四年三月 二册

自由之理 ミル著 中村敬太郎譯 明治四年 六册

經濟便義(世渡りの杖) ヲモラント著 何禮之譯

明治五年一月 二册

經濟要旨 西村茂樹譯 明治七年六月 二册

西國立志編 スマイルス著 中村正直譯 明治十年二月

初學經濟論 レロル著 牧川耕平譯 明治十年九月 三册

寶氏經濟學 フォセット著 永田健助譯 明治十年十二月

理財原論 ベリー著 川本清一譯 明治十二年七月

主氏經濟學 ケーリー著 犬養毅譯 明治十七年六月 二册

勸業理財學 マイシヤル著 高橋是清譯 明治十九年一月 二册

本學神戸教授出品

アダム・スミスの墓見取圖 一葉

Hawkins, An A stract of Adam Smith's Wealth of Nations, Oxford. 1905. 1 vol.

經濟調和論 バスチア著 土子金四郎譯 明治二十年

本學河上教授出品

Wealth of Nations, London, 1776, 1st ed. 2 vols.

三田學會雜誌第五卷三號 スミス記念號 明治四十四年四月

其他寫眞、繪葉書 數葉

本學本庄教授出品

Wealth of Nations, London, 1776, 1 st ed. 2 vols.

London, 1778, 2 nd ed. 2 vols.

1781, 3 rd ed. 3 vols.

1793, 7 th ed. 3 vols.

Edinburgh, 1889, McCulloch's ed. 1 vol.

Moral Sentiments, London, 1790, 6 th ed. 2 vols.

記事

The Scottish National Portrait Gallery, Edinburgh, 1891.

(スミス肖像あり)

其他 寫眞 數葉

本學大森助教出品

商政標準 天野爲之著 明治十九年十二月

本學寺尾講師出品

Wealth of Nations, London, 1791, 6 th ed. 3 vols.

講演會

午後一時より本學部新大講堂に於て小川教授司會の下に講演會を開く、正面の壁、高き所に恰も經濟學界に於ける不滅の巨星の如くに、花環にて飾られたスミスの大肖像版畫が、掲げられた。定刻前に早くも千餘名の聴衆がさしもの廣大大會場に充満するといふ盛況であつたが、豫定通り午後の正一時に、財部教授の開會の辭を以て始められ、順次左の講演があつた。

第一席 スミスの生涯 本庄教授

第二席 スミスの著作 河上教授

第三席 スミスの學說の根柢としての價值思想

恒藤助教

第四席 スミスとコンザアックとの價值論 田島教授

第五席 スミスの自由政策の見地と自然主義觀

河田教授

第六席 スミスの租税原則

神戸教授

以上の講演が終つて後、小川教授の閉會の辭を以て講演會を閉ず。時に午後六時、更に關係者の記念撮影と晚餐會とが行はれ、盛會裡に散會したのは九時であつた。

右の講演の内容については、新に各講演者の執筆された論文が、本記念號に収録されて居るから、茲に再録する必要はない。たゞ河上教授の分は、本誌には當日講演されたものと異なる論文が掲載されてゐるから、茲に講演の概要を述べて置きたい。

スミスが生前に公にした著作は僅か二部である。其一は「The Theory of Moral Sentiments」であつて、これは彼がグラスゴウ大學に於ける講義 Moral Philosophy の一部に手を入れて出版したものである。其初版は一七五九年に出版され彼の生存中に第六版まで重ねられた。

グラスゴウ大學に於ける前述の講義は(一)自然神學(二)嚴密な意味に於る倫理學(三)法律及び政治の一般原理のうち正義に關する部分(四)同じく法律及び政治の一般原理のうち、行政處

入及び軍備に關する部分の四部門に分れてゐて、この中の(二)の部門に手を入れて出版したものが、彼の「The Theory of Moral Sentiments」である。なほ此の書に記載してある著者の豫告を見ると、彼の Moral Philosophy の講義のうち、前に述べた(三)及び(四)の部門に相當する部分も述べて之を公にする積りであつたことが分かるのだが、その豫告の一部分は、それより約十七年を経て始めて實現された。即ち有名な Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations がそれであつて、之は前に述べた法律及び政治の一般原理のうち「行政、歳入及び軍備」に關する部分に相當するものである。この Wealth of Nations が彼れをして今日の如く記念せらるゝに至らしめた彼の著作であることは、論を俟たぬ。

スミスの歿後公にされた著作は二つある。其一は死後五年目に出た Essays on Philosophical Subjects で、其二は死後六年目に出た Lectures on Justice, Police, Revenue and Arms である。前者はスミスが臨終に斷行した未定稿の燒却を繼に免れたもので、死に際し之を友人に託し適當の處置を爲さん事を乞ふたものである。後者はスミスが往年グラスゴウ大學で試みた講義を一學生が筆記せしものを、一八九六年にキヤナン教授が校閲して出版したものに外ならぬ。これは Moral Philosophy 中の(三)及び(四)の部門に相當するものである。

今回の記念會について各方面よりその珍藏せらるゝ幾多の貴重なる圖書記念物を出陳され、

以て展覧會に一段の光彩を添うることを得たるは、本會の深く感謝する所である。猶當日武藤教授其他より祝電を寄せられ、殊に態々東北大學より參會された方もあり、和歌山高等商業からは殆んど全校の學生を擧げて來會せられ、其他大阪彦根各地から來會された方も尠くなかつた。かくの如く今回之の擧げが多大の成功を告げ有意義なるものなりしことは、全く學内學外各方面よりの同情の厚かりし爲であつて、本會の深く感謝しつゝある所である。

ミス誕生二百年記念の催が、我國各地に於て行はれたことは眞に學會の盛事であるが、歐米諸國殊に英國に於ても、種々なる催しのあつたことは、當然のことである。今二三の新聞雜誌に現はれた所によると、先づスミスの誕生地カアコウデイーで發行してゐる新聞 Fishie Advertiser 五六五九號(六月二日)は、スミス記念號(そのもの)であつて、Bi-Centenary of Adam Smith の題下に一頁以上を割き、スミス及び母の肖像と、スミスの家跡に建てられてゐ

る記念標との三個の寫眞を挿入して種々なる記事及び Nicholson, Bonar, Cannan, Romanes, Price 諸教授のスミス評論や感想等を掲載してゐる。同紙の報する處によればカアコウデイーでは、二百年記念として、六月五日にスミスの生れた家の跡やスミス館を裝飾し、且、町長はエデンバラにあるスミスの墓場へお参りをして花環を捧げたといふことである。猶 Economic Journal によればグラスゴウ大學では記念展觀の催しがあり、スコット教授(Prof. W. R. Scott)は一條の講演を試みたさうである。<sup>\*</sup>

五月二十四日のタイムスの文藝附録には四欄に亘つて The Wealth of Nations の題下<sup>\*\*\*</sup>に、またエコンミストの六月九日の紙上には Adam Smith の題下に約一頁半に亘つて、何れもスミスの學界に於ける地位や學說を評論してゐる。<sup>\*\*\*\*</sup>

Economica には Bonar の Adam Smith, 1723 and 1923 と題する論文<sup>\*</sup>、及 Cannan の Adam Smith on Twentieth Century Finance といふ論文が載つてゐる。前掲 Fishie Advertiser に

\* Economic Journal, June, 1923.

\*\* The Times, Literary Supplement. No. 1114.

\*\*\* The Economist, No. 4163.

\*\*\*\* Economica No. 8. June, 1923.

はタイムスの右の所論を採萃掲載して居る。

英國でも以上の外に、勿論各地で種々なる學會や新聞雜誌上に於て、スミスの生誕二百年を記念したことであらうが、英國以外の國でも同様の事柄があつたに相違ない。その一例として Frankfurter Zeitung には (六月十六日) Dr. Bruno Schuby が Adam Smith. Zweihundert Jahre Volkswirtschaftslehre の題下に、スミスの略傳と學説とを論じて居ることを茲に附記して置く。

スミスの生誕二百年に際して彼れが經濟生活の事實を廣く觀察し、徹底せる理解力によつて

徒らに空理空論に捉へらるることなく、實際に立脚して理論を立てたことが、多くの方面で論せられてゐる。そしてこれが今日尙スミスを研究する必要ある所以であるとせられてゐる。<sup>\*</sup> 即ちスミスは世事に疎き學究ではなくして、實世間を體得せし偉大なる學者なりしことを認めざるを得ぬ。我々がスミスの二百年を記念するは、學界に忘れられて居る人の名を想起するためではなくして、學界に生ける人の偉大さを景仰するためである。げにポーナーの言へる如く、<sup>\*\*</sup> He lives on, and will last with civilisation itself” を考へざるを得ぬ。

\* The Economist No. 4163. p. 1291

\*\* Fifeshire Advertiser.